

## 6. 高度肥満症の診断基準と治療アプローチ

大分大学医学部内分泌代謝・膠原病・腎臓内科講座 講師  
正木 孝幸

### [Summary]

高度肥満は、一般にBMI  $35\text{ kg/m}^2$ 以上の肥満者と定義される。高度肥満の併存疾患としては高血圧症、脂質異常症、糖尿病と併せて睡眠時無呼吸症候群やうつ血性心不全がみられることが多い。また高度肥満においては、遺伝性肥満など二次性肥満の鑑別も必要である。

高度肥満症の治療法の一つに行動療法があり、その代表的な治療技法として、食行動質問表、グラフ化体重日記、30回咀嚼法がある。一方で高度肥満症では精神的問題などがみられることが多く行動療法の導入や維持に難渋する場合もある。そのような内科的治療抵抗性の高度肥満症においてはスリーブ状胃切除術などの肥満外科治療の適応になる。

### Key Words :

高度肥満症 □ 診断基準 □ チーム医療 □ 治療アプローチ □ 外科治療

### 高度肥満症の診断基準

高度肥満症の明確な定義は厳密な意味では確立していない。高度肥満症においては治療が困難なケースあるいは肥満に伴う合併症が重篤であるケースが多いが高度肥満は必ずしも治療の困難度や合併症の数や重症度を意味するものではなく、あくまで肥満の程度から判定するのが一般的になっている。肥満の程度の指標として身長と体重から算出されるbody mass index (BMI)が用いられ、BMIは体重(kg) ÷ [身長(m)]<sup>2</sup>により計算できる。わが国ではBMIが $25\text{ kg/m}^2$ 以上を肥満としているがBMIが $25\text{ kg/m}^2$ 未満でも内臓脂肪蓄積がみられるケースも多く、肥満度とは関係なく内臓脂肪量と健康障害の評価を進めていく必要がある。

欧米ではBMIが $30\text{ kg/m}^2$ 以上を肥満と定義している。WHO基準においても $25\text{ kg/m}^2$ 以上 $30\text{ kg/m}^2$ 未満はPre-obeseと定義されている。また $30\text{ kg/m}^2 \leq \text{Obese class I} < 35\text{ kg/m}^2$ ,  $35\text{ kg/m}^2 \leq \text{Obese class II} < 40\text{ kg/m}^2$ ,  $40\text{ kg/m}^2 \leq \text{Obese class III}$ と判定される。わが国ではBMI  $35\text{ kg/m}^2$ 以上の肥満を高度肥満とするが、欧米やWHOの基準ではBMI  $40\text{ kg/m}^2$ 以上を病的肥満と表現される(表)。

また軽度の肥満症の治療は、体重を減らすことで健康障害を改善させることが目的であり体重の大幅な減量は必要